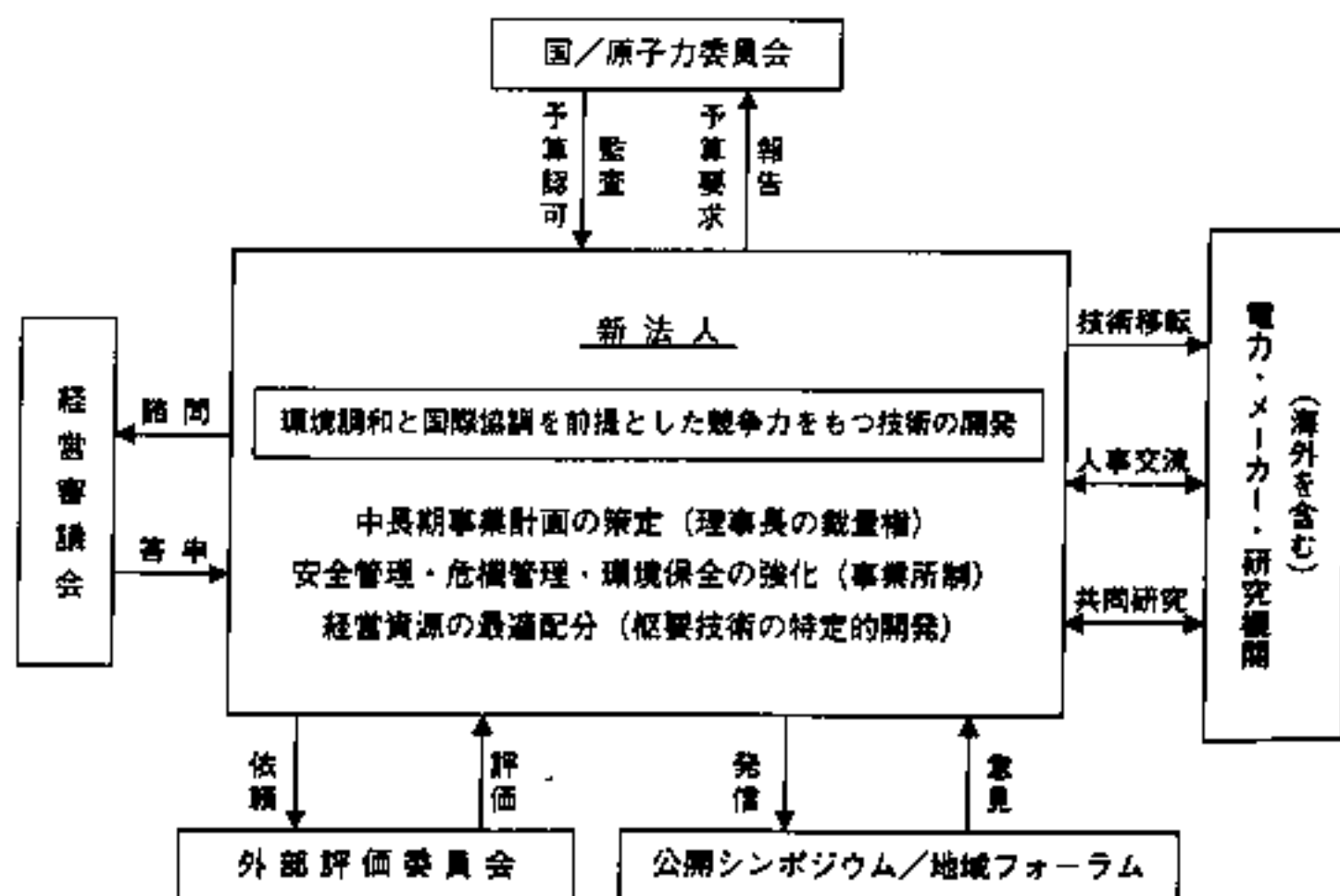


改革案の作成に当たっての基本的枠組み

新法人の使命：競争力をもつ核燃料サイクル技術の開発
研究開発成果の将来世代の人類への提供
与えられた経営資源の下での事業計画の最適化
事業の円滑な継承と長期的展望にたった研究開発の推進
社会的要請に適應した技術移転

改革の目的：事故原因の本質的除去・国民の負託の実現・異種空間の統合（サイクル全体の俯瞰／開発段階間の連携）・安全確保と危機管理への社会性の付与・状況の変化への対応（コスト意識／リストラ）を可能にする経営とその自己組織化（組織としての使命の発信→組織運営の透明性・アカウンタビリティ）



動燃改革検討委員会報告書を受けた作業部会の検討内容

経営の不在の詳細	- 安全確保と危機管理 - 安全確保への資源配分 - 情報伝達体制の整備 - 一般防災の強化 - 研究開発部門と施設管理部門の役割分担	- 安全推進本部／安全管理部署／安全対策強化費／事業計画 - 安全推進本部／危機管理推進室／情報交流部／地域交流課 - 安全推進本部／データベース化／危機管理推進室／安全管理部署 - 教養本部／事業所制／センター化／経営企画本部
	- 閉鎖性 - 社会への感受性の維持 - 組織としての使命の発信 - 事故情報の公開・保存・伝達	- 経営審議会／経営企画本部／情報交流部 - 公開シンポジウム／地域フォーラム／外部評価 - 経営企画本部／危機管理推進室／情報交流部
	- 事業の肥大化 - 強力な経営による「リストラ」 - スクラップアンドビルド	- 合理化目標の設定／中長期事業計画の策定／外部評価 - レベル0,4の整理縮小／計画の適時見直し
改革のデザインの基本	- 新組織の目標 - 競争力をもつエネルギー源としての核燃料サイクルを実現	開かれた研究開発体制／資源の最適配分／核技術の特定の開発
	- 最適な構成 - 動燃に蓄積された技術ノウハウと国の内外から入手可能な資源	人材・ノウハウ・技術・施設の最大活用／外部との共同研究の積極的推進
新組織に想定される体制	- 開発領域の限定 - 開発レベルによる分類 - 開発推進の方向付け：サイクルの俯瞰	- レベル1,2,3に限定／それぞれをレベル2,3,4にレベルアップ - 環境調和と国際協調／高速増殖炉及び関連サイクルとサイクル廃棄物環境保全
	- 安全確保と危機管理体制 - 運転管理部門の重視 - 品質保証の考え方の徹底 - 事故原因の把握と分析、安全対策への反映 - 地域連携・緊急医療を含む危機管理体制の整備	- 権限の一元化／運転部門の強化／職員を中心とした責任の明確化 - 業務品質保証活動の推進／事業所部門によるISO9000等の認証の取得 - 安全推進本部／安全支援部門の強化／環境保全の充実 - 危機管理推進室／情報交流部／地域交流課
	- 社会に開かれた体制 - 地元との共生／広報体制の充実 - 情報公開の徹底／事故報告の強制 - 民間との人事交流／特定の研究者制度の導入 - 国際共同研究の企画／世界的拠点化	- 本社移転／教養本部／情報交流部／地域フォーラム／問い合わせ窓口 - 情報交流部／危機管理推進室／データベース化／インターネット - 外部との人事交流計画の策定／任期付き任用による短期研究員制度の充実 - 国際協力センター／安全管理・危機管理の国際的情報交換／積不拡散協力
	- 専門性の均衡と研究者の裾張り - 広い分野の人材の均衡的配置 - 大学における原子力研究の活性化	- 理系・人文系の均衡的配置／外部との人事交流の推進 - 共同プロジェクトの推進／任期付き任用による短期研究員制度の充実

動燃改革検討委員会報告書の主要点

第1部「改革の基本認識」に述べられている主要点

1. 事故原因の本質的除去
2. 国民の負託の意味とその重要性の認識
3. 取り巻く情勢の変化の認識
4. 原子炉と核燃料サイクルという異種領域の統合
5. 研究・開発・実用化の異種段階間の有機的連携
6. 安全確保・危機管理・社会性の自律システム化
7. 「競争力を持つ技術」の開発
8. 一般産業分野の技術進歩の導入
9. 経営の不在

第2部 第1章2.「経営の不在の詳細」に述べられている主要点

1. 安全確保と危機管理
 - ・安全確保への資源配分の充実
 - ・情報伝達体制の整備
 - ・研究開発部門と施設管理部門の役割分担の明確化
2. 閉鎖性
 - ・社会的要請などへの感受性の維持
 - ・不断の自己評価と適正な外部評価による「組織としての使命」の発信
 - ・事故による重要情報を散逸させない経営
3. 事業の肥大化
 - ・強力な経営による「リストラ」
 - ・スクラップアンドビルドが基本

第2部 第2章1.「(改革の)デザインの基本」に述べられている主要点

1. 新組織の目標
 - ・必要な安全確保を条件として、競争力をもつエネルギー源としての閉じた核燃料サイクルをできるだけ速やかに実現
2. 最適な構成
 - ・「動燃に蓄積された技術及びノウハウ」と「国の内外から入手可能な資源」

第2部 第2章3.「新組織に想定される体制」に述べられている主要点

1. 開発領域の限定
 - ・開発レベルによる分類：レベル1、2、3に限定
 - ・開発推進の方向づけ：サイクル全体の俯瞰
2. 安全確保と危機管理の体制
 - ・運転管理部門の重視
 - ・品質保証の考え方の徹底
 - ・事故原因の把握と分析、安全対策への反映
 - ・地域連携・緊急医療などを含む危機管理体制の整備
3. 社会に開かれた体制
 - ・地元との共生／広報体制の充実
 - ・情報公開の徹底／事故報告の強制
 - ・民間との人事交流／特定の研究者制度の導入
 - ・国際共同研究の企画／世界的拠点化
4. 専門性の均衡と研究者の裾がり
 - ・広い専門分野の人材の均衡的配置
 - ・人材の裾野の拡大／大学における原子力研究の活性化